

経済学部商業学科通信教育課程

学部基礎情報

<p>【理念・目的】(2018年度自己点検・評価報告書より)</p> <p>通信教育部は、設立当初は、時代の要請を反映し、全国の勤労学生に高等教育を施すべく広く門戸を開放して学ぶ場を提供してきた。しかし、社会の推移とともに除々にその使命も変容し、現在の「生涯学習の担い手」という新たな社会的役割が付加されて今日に至っている。また、「いつでも、どこでも」情報ネットワークにアクセス可能というユビキタス社会の到来を睨み、情報通信技術の急速な発展と歩を一にし、「いつでも、どこでも」学べるという特長を一層活かす教育環境の整備とその地位の確立に努めている。</p>
<p>【人材の育成に関する目的及びその他の教育研究上の目的（教育目標）】※学則別表(11)</p> <p>企業のグローバル化・ソフト化の進展とともに、企業の課題が、商品の販売を主眼とする商業学的視点から、生産から販売までの管理・運営を考える経営学的な視点に移ってきた。商業学科では、こうした時代に即応し、経営・会計関係の科目を中心としながら、広く経済学や法律学の科目も学べる機会を提供し、実社会で通用する問題発見力・課題解決力を養うことを教育目標とする。</p>
<p>【ディプロマ・ポリシー】</p> <p>学位授与の方針は、「自由と進歩」の建学の精神を理解し、年齢に関係なく学問的関心を持ち続け、何事にも挑戦し続ける姿勢を持っていること。その上で、人文・社会・自然などに関する幅広い教養と、通学課程と同一水準の、時代の先端に行く専門分野の学識を習得し、生涯学習社会において、自立的に自由な発想と柔軟な判断が出来る能力を習得していること。</p> <p>経営学・商学、会計学・ファイナンス、経済学、および情報・統計学などの分野を網羅した専門科目を履修し、所定の科目を含め124単位を修得した者に対し、学位を授与する。</p>
<p>【カリキュラム・ポリシー】</p> <p>通学課程と同様であることを原則とするが、多様な学習ニーズを持つ通信教育部の学生に配慮し、通信教育部独自のカリキュラムを編成している。併せて、メディア授業をはじめ、地方・週末スクーリング等、社会人学生の利便性向上を目的とした授業形態を工夫している。</p> <p>経営専門科目を中心としたカリキュラムは、経営学・商学、会計学・ファイナンス、経済学、および情報・統計学などを幅広く網羅したものである。</p>
<p>【アドミッション・ポリシー】</p> <p>「社会に開かれた大学」として、高等教育の門戸を広く開放することは、通信教育課程の使命であると言える。このため、学ぶ意欲のある幅広い年齢層に対し、「いつでも、どこでも」学ぶことが出来る環境を整備することが必要である。その上で、高等教育機関であることを大前提として、学問に真摯に取り組み、生涯学習社会にあって、自己の知識や能力を社会に還元する意欲を持った人材を受け入れることを基本方針としている。</p>

I 2021年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2021年度大学評価結果総評】(参考)</p> <p>経済学部商業学科通信教育課程は通学課程と同水準の教育内容を提供すべく、カリキュラムの体系化とその受講生への明示など、適切なカリキュラム改善の努力がなされている。通信教育課程には、通学課程よりも多様性に富んだ社会経験と学習ニーズをもつ学生の入学が見込まれるが、ミスマッチを回避するための慎重な入学判定の実施とともに、Web学習サービスによる授業計画管理、多様な学習ガイダンスに加えて、教員とのコミュニケーション機会を様々な回路で準備することで、質の高い教育が提供されていると評価できる。</p> <p>通信学習に加えて豊富に準備されるスクーリングは、学生の学習の深化のみならず、教員とのコミュニケーションを図る回路ともなっていると推察できる。COVID-19により従来の宿泊を伴うスクーリングは困難となったが、「COVID-19環境下での各種スクーリング科目授業の安定的な実施を模索する」ことが2021年度重点目標として設定されており、学生からの要望が多いメディアスクーリング科目のさらなる充実を期待したい。</p>
<p>【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

学生からの要望が多いメディアスクーリング科目については、新規開講、また講義コンテンツの撮り直しの可能性を教授会で告知するとともに、メディアスクーリング科目の質の向上を図ってきた。カリキュラムの一層の充実に関しては、2019年度から始まった通学課程の新カリキュラムとの連携する方向を継続した。通信教育部の経済学部商業学科のホームページに掲載したカリキュラムツリーとカリキュラムマップにより、経営学・商学・会計学・ファイナンス、経済学、そして情報・統計学などの専門科目の位置付けと相互関連性を明確にしつつ、通学課程のカリキュラムとの一体感の醸成に努めている。通学課程と同一水準の教育が受けられるカリキュラムであることの周知が試みられた。

学習指導は、通信学習の学習質疑制度、メディアスクーリング科目の双方向コミュニケーションの充実、様々な形態による多様なガイダンスなどを通じて実施した。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、一部のスクーリング科目の授業後の質疑応答や、夏期・冬期スクーリングでの「通信学部生のつどい」は実施できなかった。このような対面での交流は、学習効果を深めるばかりでなく、学生同士や学生と教員との意思疎通を促進する重要な機会とも捉えられるため、今後は新型コロナウイルスの感染状況や、それに対する政府や法政大学の反応を念頭におきながら、可能な限りで開催する機会を模索する。

成績評価や単位認定については、学務委員によるシラバスの第三者確認をこれまで通り厳密に行なった上で、成績評価についてもこれまで通り教授会で情報共有した。

通信教育部の出願者数や入学者数は、2018年度以降2021年度まで継続的に増加する傾向にあり、在籍者全体では通学課程に近い22歳以下の年齢層が特に増加している。また、出願者の入学許可割合は特に上下していない。学習指導方法の充実が長期的にはプラスに働くという想定のもとで、上述した双方向コミュニケーションを充実させるなど、より一層の努力を投入した。離籍率の低減については、長期的な取り組みとして、学生受け入れ時の選考時に本学科への適性や学習意欲を注意深く判断することで、学生ニーズと提供するカリキュラムとのミスマッチを防いだ。ただし、出願者や入学者数、離席率については、今後も新型コロナウイルスの感染症の影響を注視する必要がある。

【2021年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、2019年度から始まった通学課程の新カリキュラムと連携する方向を継続している。加えて通学課程のカリキュラムとの一体感の醸成に努めており、通信教育部の経済学部商業学科のホームページにカリキュラムツリーとカリキュラムマップを掲載することにより、通学課程と同一水準の教育が受けられるカリキュラムであることの周知が試みられている。

学習指導は、多様なガイダンスなどを通じて実施したが、新型コロナウイルス感染症の流行により、一部のスクーリング科目の授業後の質疑応答や、夏期・冬期スクーリングでの「通信学部生のつどい」は実施できなかった。今後としては新型コロナウイルスの感染状況や、それに対する政府や法政大学の反応を念頭におきながら、可能な限り「通信学部生のつどい」を開催する機会が模索されている。

また、長期的な取り組みとして離籍率が低減するためと、入試判定を厳格化することにより学生ニーズと提供するカリキュラムとのミスマッチを防ぐという方策は評価できるが、引き続き注視することが望まれる。

II 自己点検・評価

1 理念・目的

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

1.1①学部（学科）の理念・目的は大学の理念・目的を踏まえて設定されていますか。2018年度1.1②に対応

はい

1.1②理念・目的の適切性の検証プロセスを具体的に説明してください。2018年度1.1③に対応

※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、具体的な検証プロセスを記入。

理念・目的の適切性について、通信教育課程主任と学務委員を中心に検証を行い、通信教育学務委員会と経営学部教授会で提案・審議を行っている。

1.2 大学の理念・目的及び学部・研究科等の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

1.2①学部（学科）の理念・目的は学則又はこれに準ずる規則等に明示していますか。2018年度1.2①に対応

はい

1.2②学部（学科）の理念・目的を教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。2018年度1.2②に対応

はい

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
特になし。

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
特になし。

【理念・目的の評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、「生涯学習の担い手」という新たな社会的役割が加わり、「いつでも、どこでも」学べるという特長を一層活かす教育環境の整備とその地位の確立に努めており、高く評価できる。
理念・目的の適切性については、通信教育課程主任と学務委員を中心に検証を行い、通信教育学務委員会と経営学部教授会で提案・審議を行っており、時代の要請に応えている。

2 内部質保証

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 内部質保証システム（質保証委員会）を適切に機能させているか。

2.1①質保証委員会は適切に活動していますか。2018年度2.1①に対応

はい

【2021年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】※箇条書きで記入。
・通信教育課程の学事事項は、通信教育学務委員会で審議事項であった。
・通信教育課程主任と学務委員設置による運営責任の明確化した組織体制。
・通信教育課程の自己点検・評価は、執行部会議および教授会で議論・審議された。
・通信教育部事務部管理職は、FDアドバイザー・ボードの構成員であった。
・シラバスの第三者確認は、質保証委員会を主催する教授会執行部のメンバーでもある通信教育課程主任と学務委員で実施。

2.1②質保証委員会等の内部質保証推進組織は、COVID-19 への対応・対策の措置を講じるにあたってどのような役割を果たしましたか。新規

※取り組みの概要を記入。
・COVID-19 への対応や感染防止対策に関して、毎月開催された教学問題委員会や教授会にて審議事項や報告事項として議論・決定した。
・学部内の同会議体にて、学生の動向を共有し、大学の COVID-19 に関する方針を議論、その後の対策や措置を繰り返し検討した。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
特になし

【内部質保証の評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、通信教育課程の学事事項は通信教育学務委員会における審議事項であり、通信教育課程主任と学務委員設置による運営責任の明確化した組織体制をとっている。

COVID-19 への対応や感染防止対策に関して、毎月開催された教学問題委員会や教授会にて審議事項や報告事項として議論・決定しており、役割を果たしている。

3 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

3.1①学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針を設定していますか。2018年度3.1①に対応

はい

3.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

3.2①学生に期待する学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成・実施方針を設定していますか。2018年度3.2①に対応

はい

3.2②教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していますか。2018年度3.2②に対応

はい

【根拠資料】※冊子名称やホームページURL等。

- ・ <http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/target.html#menu>
- ・ <http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/diploma.html#menu>
- ・ <http://www.tsukyo.hosei.ac.jp/outline/policy/curriculum.html#menu>

3.2③教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と関連性の検証プロセスを具体的に説明してください。2018年度3.2③に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※検証を行う組織（教授会や各種委員会等）や検証の時期等、検証プロセスを記入。

各種データの収集や授業改善アンケートを実施し、学習効果や満足度等の把握を継続して行っている。通信教育学務委員会において、経年（カリキュラム変更前後）における成績分布や単位修得試験受験者数・レポート提出数等のデータ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

一タも提示されている。また、シラバス第三者確認を活用し、適切に単位修得方法の厳正な運用ができるよう、環境整備を行っている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし

3.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

3.3①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

2021年度 1.1①に対応

B：改善することができなかった

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。 通学課程で提供している教育内容と同様の水準の学習が出来るよう、商業学科では、毎年の授業編成においてバランスの取れたカリキュラムの提供に努めている。同時に、各担当教員は、通信教育課程に特有の多様な社会経験や学習ニーズを持つ学生のために、授業運営や学習方法の工夫に力を入れている。商業学科には職務経験を有する教員が少なくないため、より実践的な学習内容の提供も可能となっている。 授業形態は、通信学習と各種スクーリングの2つである。スクーリングは、昼間6日間と終日3日間の夏期・冬期スクーリング、夜間開講の春期・秋期スクーリング、週末3日間の週末スクーリング、全国主要5都市での地方スクーリング(3日間)、ゴールデンウィーク中の3日間に行うGWスクーリング、これにインターネットを利用したメディアスクーリングと、その形態は多様である(ただし、2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地方スクーリング等の従来の枠組みも変え、原則として全てオンライン実施とし、学生の履修計画や進級・卒業に影響しないように配慮した)。通信教育部の重点目標であるメディアスクーリングの拡充に向けて、商業学科では、2021年度に21科目を設置し、18科目を開講した。また、教授会においてメディアスクーリングの新規担当者を募集した。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等
・法政大学通信教育部商業学科のカリキュラムツリーの公開ホームページURL： https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/business/subject/curriculum-tree.pdf
・法政大学通信教育部商業学科のカリキュラムマップの公開ホームページURL： https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/common/doc/faculty/business/subject/curriculum-map.pdf

3.3②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性を確保していますか。2021年度 1.1②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修(個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ(必修・選択等含む)への配慮が行われているか、また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。 卒業単位124のうち専門科目は82単位であるが、その構成は選択必修科目が20単位、選択科目が62単位となる。専門科目については、経営学・会計ファイナンス・商学に関連する領域を広く履修できるように配慮している。また、意欲と適性のある学生に対し通学課程と同一水準の教育を施し、広範な知的素養と思考力を身につけた社会に貢献する人材を育成するための授業科目を体系的に配置している。そのため、現在の商業学科は、日本の通信教育課程において、体系的な経営学の教育を実現した学科の1つとなっていると言える。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
・ https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/business/#menu
・商業学科カリキュラムツリーとカリキュラムマップ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

・『学習のしおり』2021

3.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

3.4①学生の履修指導を適切に行っていますか。2021年度1.2①に対応

B：改善することができなかった

【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。

- ・Web 学習サービスによる授業計画管理
- ・学習ガイダンス（事務ガイダンス、卒業生による体験ガイダンス・相談、教員による学習指導、教職ガイダンス）による履修指導（※2021年度は新型コロナウイルス感染症のリスクを考慮して、教職ガイダンス1回、学習ガイダンス（卒業生による学習体験等）1回のみオンラインにて実施した）

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・通信教育部学習環境・サポート制度
- <https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/>
- ・『法政通信』、各年月号

3.4②学生の学習指導を適切に行っていますか。2021年度1.2②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※取り組み概要を記入。

- ・通信学習の学習質疑制度、スクーリング科目の授業後質疑、メディアスクーリング科目の双方向コミュニケーションを利用し、直接担当教員の指導を受けることが出来る。ただし、2021年度は新型コロナウイルス感染症の流行によりスクーリング科目の授業後質疑と夏期・冬期スクーリングにおける「通信教育部生のつどい」は実施できなかった。
- ・Web 通信学習相談制度を利用し、学習計画、レポート作成、試験対策について通信教育部の卒業生による学習指導を受けることが出来る。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・通信教育部学習環境・サポート制度
- <https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/support/>
- ・『法政通信』、各年月号

3.4③1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行なっていますか。2018年度3.4③に対応

はい

【履修登録単位数の上限設定】※1年間又は学期ごと、学年ごと等に設定された履修単位の上限を記入。

年間履修単位上限を49単位までと定めている。スクーリングの年間登録単位を、教職・資格科目も含め49単位までと定めている。

【上限を超えて履修登録する場合の例外措置】※履修登録単位数の上限を超えて履修できる場合、制度の概要を記入。

本科生は教職・資格科目を49単位とは別に、原則合計60単位まで履修できる。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・法政大学通信教育部学則
- ・『2018入学案内』、p.48、科目等履修生（選科生・教職生）受講条件
- ・『学習のしおり2021』、p.30-、単位制度

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

3.4④シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。2018年度3.4④に対応

はい
【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。
質保証委員会を主催する教授会執行部でもある通信教育課程主任と、学務委員による全シラバスチェック
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし

3.4⑤授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。2018年度3.4⑤に対応

はい
【検証体制及び方法】※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。
授業改善アンケート質問事項「授業の運営が適切であった」等で確認
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし

3.4⑥通信教育課程では、通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。2021年度1.2③に対応

※取り組みの概要を記入。
商業学科には多種多様な科目が配置されており COVID-19 への一律の対応・対策が難しいため、担当教員に対して臨機応変な対応を求めた。ただし、その効果は補足できていない。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし

3.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

3.5①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。2021年度1.3①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
【確認体制及び方法】※箇条書きで記入。
<ul style="list-style-type: none"> すべての通信学習・スクーリング学習科目のシラバスにて成績評価の方法と基準を明確に記載しているかを学務委員が確認している。 レポートや筆記試験における不正行為については、基本的に個別教員の判断に委ねるが、不正行為が発覚した場合は、経営学部教授会にて厳正な処分を行い、通信教育部学務委員会と情報共有する。 他大学、専門学校、本学通学課程からの編入学生の既修得単位の認定は、事務と連携し、学務委員が通読判定の際、厳正に対応している。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし

3.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

3.6①成績分布、進級などの状況を学部（学科）単位で把握していますか。2021年度1.4①に対応

はい
【データの把握主体・把握方法、データの種類の等】※箇条書きで記入。
<ul style="list-style-type: none"> 進級判定は、卒業判定と併せて経営学部教授会にて審議を行っている。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> 成績分布、学生アンケート、レポート提出数、単位修得試験受験者数、スクーリング受講者数等のデータは、通信教育学務委員会を通じて教授会に報告し、情報を共有している。 在学年限を超えた学生の再入学について学務委員が公正な審査を行っている。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし

3.6②分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。2021年度1.4

②に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。
商業学科の学習分野は多様であるため、その学習成果の測定については、すべての科目のシラバスに適切に記載する必要があります。シラバスの第三者確認として、商業学科の学務委員二人は、シラバスに成績評価の方法と基準について不明確な記述がないかなどを開講時期に合わせて順次確認している。学習成果の把握は、レポート添削や単位修得試験などによって適切に行われている。レポートや卒業論文などの学習成果物に対しては、科目担当教員に対して不正行為防止用ソフトウェアの利用を促し、学習成果の客観的な評価に努めている。成績分布等のデータは通信教育学務委員会を通じて教授会に報告されている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
法政大学通信教育部商業学科 WEB シラバス

3.6③具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。2021年度1.4③に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学修成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。
個別学生の学習成果は、修得科目の状況やその成績によって把握している。通信教育科目は、レポート添削に加え、単位修得試験によって学習成果を測定している。スクーリング科目は（2021年度は新型コロナウイルス感染症が流行したため夏期・冬期スクーリングは原則としてオンラインにて開講）授業参加度と授業最終日に実施する最終試験で、メディアスクーリング科目は最終試験に加えて中間レポートを課すなどにより、それぞれ学習成果の把握に努めている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

内容

・スクーリング科目は国内外の各地から宿泊を伴う移動を受講生に強いることから、新型コロナウイルス感染症流行下で対面での実施は困難であった。改善計画は、各種のスクーリング科目をオンラインに移行することで、2020年度冬期スクーリング以降は対応可能な科目からオンラインでの実施を始めている。

【教育課程・学習成果の評価】

<①方針の設定に関すること (3.1~3.2) >

経済学部商業学科通信教育課程では、学部（学科）として修得すべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件）を明示した学位授与方針が設定されており、教育課程の編成・実施方針が設定されている。また、教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針はホームページに公表されている。

各種データの収集や授業改善アンケートを実施し、学習効果や満足度等の把握を継続的に実施しており、通信教育学務委員会において、経年（カリキュラム変更前後）における成績分布や単位修得試験受験者数・レポート提出数等のデータも提示されている。教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性と連関性の検証が行われているのは評価できる。

<②教育課程・教育内容に関すること (3.3) >

経済学部商業学科通信教育課程では、通学課程で提供している教育内容と同様の水準の学習が出来るよう、商業学科では、毎年の授業編成においてバランスの取れたカリキュラムの提供に努めている。ただし、2021年度新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、地方スクーリングなどの従来の枠組みを変え、原則として全てオンライン実施となったため、予定通りの授業運営をすることができなかったが、メディアスクーリングの科目が18科目開講され、教授会においてもメディアスクーリングの新規担当者の募集がなされている。

学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系性については、専門科目については、経営学・会計ファイナンス・商学に関連する領域を広く履修できるように配慮されている。ホームページにはカリキュラムマップとカリキュラムツリーが掲載されており、カリキュラムの順次性と体系性が明らかにされており評価できる。

<③教育方法に関すること (3.4) >

経済学部商業学科通信教育課程では、学生の履修指導において、新型コロナウイルス感染症の影響もあって自己評価をBの改善することができなかったとしている

学生の学習指導に関しては、通信学習の学習質疑制度、スクーリング科目の授業後質疑、メディアスクーリング科目の双方向コミュニケーションを利用し、直接担当教員の指導を受けることが出来る体制となっており、適切に行われた。1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定も49単位までと定められている。

シラバスが適切に作成されているかの検証についても、適切になされており、授業がシラバスに沿って行われているかの検証も行われている。

<④学習成果・教育改善に関すること (3.5~3.6) >

経済学部商業学科通信教育課程では、すべての通信学習・スクーリング学習科目のシラバスにて成績評価の方法と基準が明確に記載されているかを学務委員が確認しており、成績分布、進級などの状況が学部（学科）単位で把握されている。

進級判定は卒業判定と併せて経営学部教授会にて審議を行っており、成績分布、学生アンケート、レポート提出数等のデータが通信教育学務委員会を通じて教授会に報告され、情報共有されている。

分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みについても、レポート添削、単位修得試験などによって適切に行われている。

ただし、スクーリング科目は国内外の各地から宿泊を伴う移動を受講生に強いることから、新型コロナウイルス感染症流行下で対面での実施は困難であった。改善計画は、各種のスクーリング科目をオンラインに移行することで、2020年度冬期スクーリング以降は対応可能な科目からオンラインでの実施を始めていることは評価できる。

4 学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

4.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

4.1①求める学生像や修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を設定していますか。

2018年度 4.1①に対応

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

はい

4.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

4.2①定員の超過・未充足に対し適切に対応していますか。2018年度4.2①に対応

はい

※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

定員充足のあり方については、通信教育課程全体にかかわる大きな課題である。文部科学省担当部署も本件について十分認識していることを確認している。学務部教学企画課と連携を図り、他大学の事例をはじめ、情報収集にも力を入れ、引き続き改善に向けた検討をしたい。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

大学通信教育設置基準

4.3 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

4.3①学生募集および入学者選抜の結果について定期的に検証を行い、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。2018年度4.3①に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた

※検証体制及び検証方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。

学生募集および入学者選抜結果については、毎年度、通信教育学務委員会で志願者数、合格者数、入学者数等の関連データが、ともに適宜報告される。データを踏まえ、通信教育課程主任および学務委員が現状と課題を教授会にフィードバックしている。また、志願者選考（通読判定）等は通信教育課程主任と学務委員が実施・検証している。

【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

特になし

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容

通信教育部の定員充足のあり方については、通学課程の設置・認可、アフターケア等への影響もあるため、引き続き学務部教学企画課と密に連携をとる。

【学生の受け入れの評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、求める学生像等を明らかにした学生の受け入れ方針が設定されており、通信教育課程全体にかかわる大きな課題である定員充足のあり方については、学務部教学企画課と連携を図ることでの、適切な対応が望まれる。

学生募集および入学者選抜結果については、毎年度、通信教育学務委員会で志願者数、合格者数、入学者数等の関

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

連データが、ともに適宜報告されており、定期的に検証が行われている。また、通信教育課程主任および学務委員が現状と課題を教授会にフィードバックするなど、検証結果をもとに改善・向上に向けた取り組みが行われている。

5 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

5.1①組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在をどのように明示していますか。2018年度5.1①に対応

【学部執行部の構成、学部内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・経営学部執行部（学部長1名、教授会主任1名、教授会プログラム主任1名、教授会副主任1名、通信教育課程主任1名） ・教授会（原則として月1回） ・通信教育学務委員会/教養教育部会（原則として月1回）
【明示方法】※箇条書きで記入。
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学通信教育部学則 ・通信教育部学則に関する規程 ・通信教育関係学部長会議規程 ・通信教育学務委員会規程 ・通信教育教養教育部会細則
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし

5.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

5.2①学部（学科）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。2018年度5.2①に対応

はい
※教員像及び教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性の観点から教員組織の概要を記入。
大学通信教育設置基準の附則3「この省令施行の際、現に通信教育を開設している大学の組織、編成、施設及び設備で、この省令の施行の日前に係るものについては、当分の間、なお従前の例によることができる」に拠り、通信教育課程専属の専任教員は配置していないが、教科担当者に必ず専任教員を配置し、また通学課程の教員が通信教育課程も併せ行う形で教育を行っていることで、カリキュラムにふさわしい教員組織を備えていると判断している。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
大学通信教育設置基準

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

【教員・教員組織の評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、学部執行部は経営学部執行部、教授会、通信教育学務委員会/教養教育部会で構成され、役割分担と責任の所在が明確化されている。

通信教育課程専属の専任教員は配置していないが、教科担当者に必ず専任教員を配置し、また通学課程の教員が通信教育課程も併せ行う形で教育を行っていることで、カリキュラムにふさわしい教員組織を備えている。経済学部商業学科の通信教育課程を、歴史的経緯から経営学部教員が、通教専属教員を置かずに運営している苦労は、近年、英語学位コースも始めた負担増を思えば、高く評価できる。

6 学生支援

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

6.1①卒業・卒業保留・留年者及び休・退学者の状況を学部（学科）単位で把握していますか。2018年度6.1①に対応

はい
【データの把握主体・把握方法・データの種類等】※箇条書きで記入。
・卒業判定は、進級判定と併せて教授会審議事項 ・休・退学は、学生からの申請に基づき教授会審議事項
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
特になし

6.1②学部（学科）として学生の生活相談に組織的に対応していますか。2018年度6.1②に対応

A：従来通り効果的に取り組むことができた
※学生の生活相談に関する取り組み概要を記入。
通信教育課程の事務局である通信教育部事務局では学生担当を置き、学生の生活相談も含め学生対応に力を入れている。スクーリング開催時における学生周知文書等において、各種ハラスメントに対する防止やダイバーシティー宣言について書面で案内を行っている。また、必要に応じて、学内に設置されている学生相談室やハラスメント相談室の活用案内もしている。
【2021年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
『学習のしおり 2018』、p. 208 『学習のしおり 2021』、p. 160, p. 233

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
特になし

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

【学生支援の評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、卒業・卒業保留・留年者および休・退学者の状況は教授会審議事項となっており、学部（学科）単位で把握されている。

学部（学科）として学生の生活相談については、通信教育課程の事務局である通信教育部事務局では学生担当を置き、学生の生活相談も含め学生対応に力を入れたり、スクーリング開催時において、各種ハラスメントに対する防止やダイバーシティー宣言について書面で案内を行ったりし、組織的に対応している。

7 教育研究等環境

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 教育研究を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

7.1①ティーチング・アシスタント (TA)、リサーチ・アシスタント (RA)、技術スタッフ、授業支援アシスタント、ラーニングサポーターなどを配置することによる、教員の教育研究活動を支援する体制は整備されていますか。2018年度7.1①に対応

A： 従来通り効果的に取り組むことができた

※教育研究支援体制の概要を記入。

情報実習など、一部科目において、通学課程同様、ティーチング・アシスタント (T・A) を採用し、教育研究支援の一助となっている。

【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

特になし

7.1②通信教育課程として、学生の学習環境や教員の教育研究環境の整備に関して、COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。新規

※取り組みの概要を記入。

2020 年度のメディアスクーリングでは、通常開講に加えて秋学期に春学期科目も追加で一部開講する措置をとり、オンラインで行われる卒論面接試験などの際にネット環境に不安な学生の来校を許可し PC を利用させる、などの対策を行った。

2021 年度は卒業論文一般指導や卒論面接試験をオンラインで実施した。卒論面接試験の際にネット環境に不安な学生の来校を許可し PC を利用させる、などの対策も継続して行った。

またオンラインでの開講への対応可能性に関する情報収集に基づく教員配置とし、オンライン授業の運営に関するノウハウ共有の推進を通して担当者の掘り起こしを図った。

2021 年度入学者には、入学後のインターネット利用について注意喚起を行い、自身のインターネット環境を整えることを前提に入学することとした。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

『2021 入学案内』『入学後のインターネット利用について』 p. 41

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容

特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
通信教育部全体の問題でもあるが、現時点において通学課程で運用中の授業支援システムのような教育研究環境が整備されていない。

【教育研究等環境の評価】

<p>経済学部商業学科通信教育課程における教員の教育研究活動を支援する体制については、情報実習など、一部科目において通学課程同様ティーチング・アシスタント（T・A）を採用し、教育研究支援を行っている。</p> <p>COVID -19 への対応については、2021 年度は卒業論文一般指導や卒論面接問をオンラインで実施した。卒論面接問の際にネット環境に不安な学生の来校を許可し PC を利用させる、などの対策も継続して行った。また、2021 年度入学者には、入学後のインターネット利用について注意喚起を行い、自身のインターネット環境を整えることを前提に入学することとするなど、対応・支援は行われている。</p> <p>なお現時点において通学課程で運用中の授業支援システムのような教育研究環境が整備されていない。ヒアリングによれば、現時点では、まもなく使用できなくなる LMS を特例的に使っているが、もともとメディアスクーリング用の LMS では、資料の容量制限や、レポート提出について教員側で初期設定できないなど、Hoppii に比べると種々の制約がある。Hoppii が導入されていない理由としては、通教生の中には、(通学課程の学生に比べて) 一定程度 PC やインターネットを使えない学生がいて、それを大前提として授業が運営されてきたという事情があるという。納得できる場所であるが、通教部門では、通教生も Hoppii が使えるようにする交渉が始まっているとのことなので、今後、通学課程と同一水準をめざすという方針に照らして、学習環境の差を小さくしていく改善を期待したい。</p>

8 社会貢献・社会連携

(1) 点検・評価項目における現状

8.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また教育研究成果等を適切に社会に還元しているか。

8.1①学外組織との連携協力による教育研究の推進に関する取り組み及び社会貢献活動を行っていますか。2018年度8.1①に対応

A : 従来通り効果的に取り組むことができた
※取り組み概要を記入。
通信教育部商業学科では、2013 年度より会計系の専門学校として有名である学校法人大原学園と業務提携をし、併修制度を運用している。2018 年度の契約更新の際にも同制度の継続を検討している。通信教育部ホームページにおいて卒業生による体験談の充実を進めるなど卒業生との連携の強化を図っている。これにより、本学の教育研究の魅力についてより広い周知が期待できる。
【2021 年度に改善された事項および新規取り組み事項等】※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。
特になし
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
法政大学通信教育部ホームページ https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/events/reviewer/

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた。B: 改善することができなかった。」を意味する。

題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
特になし

【社会貢献・社会連携の評価】

経済学部商業学科通信教育課程では、2013年度より会計系の専門学校である学校法人大原学園と業務提携を行い、併修制度を運用している。
 また、通信教育部ホームページにおいて卒業生による体験談の充実を進めるなど卒業生との連携の強化を図ることにより、本学の教育研究の魅力についてより広い周知が期待でき、大いに評価できる。

9 大学運営・財務

(1) 点検・評価項目における現状

9.1 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。
 また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

9.1①通信教育学務委員会等の権限や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。2018年度

9.1①に対応

はい
※概要を記入。
経営学部では通信教育課程主任と学務委員設置による運営責任の明確化した組織体制を整えている。通信教育課程主任と学務委員は、月1回を目安に定期的に開催される通信教育学務委員会に出席すると共に、通読判定などの入学選考から卒業に至るまでの各種学事事項の審議に参加し、その詳細について経営学部教授会と緊密な連携を取っている。
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。
通信教育学務委員会規程

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容
特になし

(3) 課題・問題点

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「課題・問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「課題・問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既の実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「課題・問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容
特になし

【大学運営・財務の評価】

経営学部では通信教育課程主任と学務委員を設置し、その運営責任を明確化している。
 通信教育課程主任と学務委員は、月1回を目安に定期的に開催される通信教育学務委員会に出席すると共に、通読判定などの入学選考から卒業に至るまでの各種学事事項の審議に参加している。経営学部教授会と緊密な連携を取っている。

Ⅲ 2021年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	理念・目的
----	------	-------

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

1	中期目標	幅広い年齢層、多種多様な学問的関心、様々な入学動機などに応じるカリキュラムを提供し、実社会で通用する問題発見力・課題解決力を養う。	
	年度目標	—	
	達成指標	—	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		—	
理由		—	
改善策		—	
No	評価基準	内部質保証	
2	中期目標	学習過程・単位修得方法の厳正化	
	年度目標	—	
	達成指標	—	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		—	
理由		—	
改善策		—	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
3	中期目標	検証に基づく更なるカリキュラムの充実	
	年度目標	通学課程と同一水準の教育が受けられるカリキュラムであることの周知に努める。	
	達成指標	通信教育部、経済学部商業学科のホームページにて、通学課程のカリキュラムと同一水準にあることを発信する。授業改善アンケート、通信教育部生のつどいなどから学生の要望を汲み取る。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		B	
理由		ホームページにより通学課程のカリキュラムと同一水準であることは発信できたが、新型コロナウイルス感染症の流行期と重なったことから、通信教育部生のつどいが中止となった。このことから、学生の要望は年初の想定ほど汲み取れたとは言えない。	
改善策		新型コロナウイルス感染症の流行の波とそれに対する政府や法政大学の反応を予測するのは難しいが、対面での周知の可能性を探りつつ、ホームページ等を中心とした発信に努めていく。	
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
4	中期目標	各種スクーリングに付き、更なる充実化を図る。	
	年度目標	COVID-19 の動向に左右されないスクーリング科目の安定的な実施方法を模索する。メディアスクーリング科目の一層の拡充を図り、各種スクーリング科目の質の改善に努める。	
	達成指標	スクーリング科目の担当教員にオンラインと対面のどちらでも対応可能か打診した上で担当を依頼する。授業運営のノウハウを適宜、教授会等で情報共有する。その他のスクーリングについても、担当教員の配置が適切に行われているかを教授会などで検証する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
自己評価		A	
理由		メディアスクーリング科目について、オンラインと対面のどちらでも対応可能かを承諾いただいた上で担当を依頼した。授業運営のノウハウは、担当者に教授会等で発信いただくことにより情報共有した。担当教員の配置については、教授会で審議することで適正かどうかを検証した。	
改善策		—	
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
5	中期目標	在学期間の短縮化に努める。	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

	年度目標	担当教員に、レポート添削、単位修得試験、スクーリングの最終試験などで成績管理や学習指導の徹底化を呼びかける。
	達成指標	授業形態別成績分布、取得単位の推移などのデータに基づき、中長期的な視点で効果の測定を行う。授業改善アンケート、通信教育部生のつどいなどから学生の要望を汲み取る。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
		自己評価 A
		理由 授業形態別成績分布や取得単位数の推移などのデータにより効果測定を行った。レポートの合格率が10%弱低下した以外には顕著な変化はなかったが、成績管理の徹底かの成果が出ていると思われる。学生の要望は授業改善アンケートにより汲み取り翌年度のシラバスに反映されたが、通信教育部生のつどいは新型コロナウイルス感染症の流行期と重なったため中止されたが、これは想定範囲内であった。
		改善策 -
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
6	中期目標	離籍者の軽減に努める。
	年度目標	各担当教員にレポートの書き方指導など、学習意欲を高めるための工夫の呼びかけを継続する。入学希望者のニーズと商業学科の提供価値のミスマッチを防ぐために入試判定の厳格化を進める。
	達成指標	計画的な学習プランの提示などを通じて、中長期的な観点から離籍率の推移を把握しつつ、学務委員が中心となって入試判定の厳格化を進める。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
		自己評価 S
		理由 離籍率は昨年度と比べると3%弱減少し、低水準を保っている。指導や学習意欲を高める工夫だけでは防げない離籍には、対策の効果は限定的にも関わらず減少したことは評価できる。入試判定は、引き続き学務委員が中心となり厳格に行っており、その成果が出ているものと考えられる。
	改善策 -	
No	評価基準	学生の受け入れ
7	中期目標	定員充足に向け、引き続き取り組んでいく。
	年度目標	通信教育部のコンテンツ充実化を図るとともに、授業の質の改善などに積極的に取り組むことによって、将来的な商業学科の評判の向上を目指す。
	達成指標	商業学科の入学者数と在籍者数は学科単位としては最も多く、すでに一定の水準に達していることを踏まえた上で、引き続き、中長期的な推移を検証していく。
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価
		自己評価 A
		理由 入学者数は数年続けて増加し、昨年度からは66名増加した。在籍者数も微増であるため、商業学科の評判は向上していると考えられるが、コロナ渦の影響が想定されるため、例年の傾向と並べて評価するのは難しい。
	改善策 -	
No	評価基準	教員・教員組織
8	中期目標	教育理念と目的を達成するために通信学習と各種スクーリング担当の教員を適切に配置・構成する。
	年度目標	専任および兼任教員の専門性を考慮し、バランスのとれた通信学習科目とスクーリング科目の開講に努める。近年増加傾向にある教育負担の平準化も並行して実施する。
	達成指標	学務委員が中心となり、通信教育学務委員会と教授会が連携をとりながら、科目担当教員が適切に配置されているかを検証していく。
	年度末	教授会執行部による点検・評価

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

	報告	自己評価	A
		理由	学務委員が中心となり、専門性と開講形態においてバランスがとれた科目担当教員の配置を行い、教授会で咨ることによって配置が適切かを検証した。
		改善策	—
No	評価基準	学生支援	
9	中期目標	不正行為を防止するための指導を適宜・随時行う。	
	年度目標	最終試験の際の不正行為のみならず、レポートや卒業論文の作成時に剽窃などが行われないよう、各教員による指導を徹底するとともに、不正行為防止冊子の配布、学習ガイダンスなどを通じて注意喚起を行う。	
	達成指標	通信学習と各種スクーリングにおいて、授業形態別の不正行為に関するデータを蓄積し、再発防止に努める。不正行為が発覚した場合は厳正に対処する。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		授業形態別の不正行為に関するデータは蓄積できている。不正行為を予防する対応は、授業等を通じてこれまでどおり実施できており、不正行為には厳正に対処した。	
	改善策	—	
No	評価基準	社会連携・社会貢献	
10	中期目標	社会人教育、生涯学習、再学習、社会連携の更なる強化を目指す。	
	年度目標	多様な学習ニーズに応えるため、開かれた姿勢で学生を受け入れ、卒業生と在校生の繋がり場を強化していく。障がい者などを含む社会的弱者に対して一層の配慮を心がける。	
	達成指標	本学科と大原学園間の併修協定による成果を引き続き検証する。卒業生による体験談などを通信教育部ホームページなどで引き続き公表し、先輩による学習モデルの提示と勉学の動機付けを行う。	
	年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
理由		卒業生による体験談などの公表により学習モデルの提示と勉学の動機付けは行うことは、ホームページ等を通じて引き続き実施できている。	
	改善策	—	
<p>【重点目標】 COVID-19 環境下での各種スクーリング科目授業の安定的な実施を模索する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 スクーリング科目の担当者に、対面ではなくオンラインで開講することになった場合でも担当していただけるかを確認することで開講科目数の確保に努めるとともに、教授会等を通じてオンライン授業の運営に関するノウハウの共有を図る。</p> <p>【年度目標達成状況総括】 年度目標は8項目中7項目で達成できた。質の向上という点では、継続的な努力によりすべての項目においてすでに一定の水準に達しているにも関わらず、1つの項目がS（目標を十分達成し、質の向上が顕著である）に該当した。全体として順調に質の向上を図ることができているため、欲張った年度目標を立てることなく粛々と現状の対応を続けていくことが重要になる。一方、「B」（目標の達成が不十分である）に該当した項目が1つあったが、新型コロナウイルス感染症の流行により、中期目標を作成した時とは前提が変わってしまった。学生をリスクにさらすことはできないため、この項目の目標達成は不可能であった。新型コロナウイルス感染症に対して政府や法政大学がどのような対応をとるのかを予測するのは難しいため、しばらくは試行錯誤が続くことを前提とした上での目標設定が重要となる。</p>			

【2021 年度目標の達成状況に関する大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程は、2021 年度目標は概ね達成できており適切である。その中で1つS 評価となった目標が、入学希望者のニーズと商業学科の提供価値のミスマッチを防ぐために入試判定の厳格化を進め、離籍者の軽減につなげることであったが、実際に離籍率が3%弱減少しており評価できる。その他のA 評価となった目標につ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

いても、「2021 年度中期目標・年度目標達成状況報告書」にも記載されているとおり、通学課程と同等な教育内容を提供するためのカリキュラムや学習指導の充実等、継続的な努力により、すでに一定の水準に達していると評価できる。

とりわけ、COVID-19 環境下での各種スクーリング科目授業の安定的な実施を模索することが重点目標とされ、オンラインと対面のどちらでも対応可能かの承諾を得て、教授会等を通じてオンライン授業の運営に関するノウハウの共有を図っている点は評価できる。

B評価となった目標については改善策が提示されていたため、次年度以降の改善が期待される。

IV 2022 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	理念・目的
1	中期目標	幅広い年齢層や若年層の入学増加を視野に入れ、多種多様な学問的関心や入学動機に応じるカリキュラムを提供し、実社会で通用する問題発見力・課題解決力を養う教育・学習環境の整備を推進する。
	年度目標	—
	達成指標	—
No	評価基準	内部質保証
2	中期目標	学習過程・単位修得方法の厳正化
	年度目標	—
	達成指標	—
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
3	中期目標	通信教育での学び直しの取り組み状況を振り返り、今後の取り組みのあり方・方向性を整理する。特に入学率が増加傾向にある若年層にも対応したコンテンツの作成などの施策を検討する。
	年度目標	通学課程と同一水準の教育が受けられるカリキュラムであることの周知に努める。
	達成指標	通信教育部、経済学部商業学科のホームページにて、通学課程のカリキュラムと同一水準にあることを発信するに加え、対面での周知の可能性を探ると共に、「通信教育部生のつどい」などでも周知に努める。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
4	中期目標	各種スクーリングに付き、更なる充実化を図る。
	年度目標	新型コロナウイルス感染症の動向に左右されないスクーリング科目の安定的な実施方法を模索する。メディアスクーリング科目の一層の拡充を図り、各種スクーリング科目の多様化と質の改善に努める。
	達成指標	スクーリング科目は、可能な限り対面での授業とするが緊急時にはオンラインでも対応可能かどうかを打診した上で担当を依頼する。授業運営のノウハウを適宜、教授会等で情報共有する。その他のスクーリングについても、担当教員の配置が適切に行われているかを教授会などで検証する。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
5	中期目標	在学期間の短縮化に努める。
	年度目標	担当教員に、レポート添削、単位修得試験、スクーリングの最終試験などで成績管理や学習指導の徹底化を呼びかける。
	達成指標	授業形態別成績分布、取得単位の推移などのデータに基づき、中長期的な視点で効果の測定を行う。授業改善アンケート、「通信教育部生のつどい」などから学生の要望を汲み取る。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
6	中期目標	離籍者の軽減に努める。
	年度目標	各担当教員にレポートの書き方指導など、学習意欲を高めるための工夫の呼びかけを継続する。入学希望者のニーズと商業学科の提供価値のミスマッチを防ぐために入試判定

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた、B：改善することができなかった。」を意味する。

		の厳格化を進める。
	達成指標	計画的な学習プランの提示などを通じて、中長期的な観点から離籍率の推移を把握しつつ、学務委員が中心となって入試判定の厳格化を進める。
No	評価基準	学生の受け入れ
7	中期目標	定員充足に向け、引き続き取り組んでいく。
	年度目標	授業のコンテンツ充実化を進めるとともに、授業の質の改善に積極的に取り組むことにより、志願者数の増加を図る。
	達成指標	商業学科の入学者数と在籍者数は学科単位としては最も多く、すでに一定の水準に達しているが、引き続き入学者数の推移を検証していく。
No	評価基準	教員・教員組織
8	中期目標	教育理念と目的を達成するために通信学習と各種スクーリング担当の教員を適切に配置・構成する。教員の採点作業の軽減に向けて、通信教育部システムの採点 Web 化の仕様と運用方法の検討を行う。
	年度目標	専任および兼任教員の専門性を考慮し、バランスのとれた通信学習科目とスクーリング科目の開講に努める。近年増加傾向にある教育負担の平準化も並行して実施する。
	達成指標	学務委員が中心となり、通信教育学務委員会と教授会が連携をとりながら、科目担当教員が適切に配置されているかを検証していく。
No	評価基準	学生支援
9	中期目標	不正行為を防止するための指導を適宜・随時行う。社会環境の変化と学習の ICT 化に対応した教育サービスを構築する。
	年度目標	メディアスクーリングの充実や学習ガイダンスのオンライン実施など ICT 化を進める一方で 2020 年度以前の入学者でインターネット環境を整えることが困難な学生のニーズにも対応する。
	達成指標	メディアスクーリングの履修状況や授業改善アンケートから学生のニーズを把握すると共に、学生への機器や学習環境サポートなどの利用状況を把握し、今後の ICT 体制に向け調整を図る。
No	評価基準	社会連携・社会貢献
10	中期目標	社会人教育、生涯学習、再学習、社会連携の更なる強化を目指す。
	年度目標	多様な学習ニーズに応えるため、開かれた姿勢で学生を受け入れ、卒業生と在校生の繋がり場を強化していく。障がい者などを含む社会的弱者に対して一層の配慮を心がける。
	達成指標	本学科と大原学園間の併修協定による成果を引き続き検証する。卒業生による体験談などを通信教育部ホームページなどで引き続き公表し、先輩による学習モデルの提示と勉学の動機付けを行う。
<p>【重点目標】 COVID-19 環境下での各種スクーリング科目授業の安定的な実施を模索しつつ、今後も各種メディアスクーリング科目の提供を維持し、多様な科目提供の継続に努める。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 オンライン対応が困難な学生のニーズに応えるため、2022 年度以降のスクーリングは状況が許す限り対面での開講を目指す。ただし COVID-19 の動向を見ながら、緊急時にはオンラインでも対応可能であることを打診した上で授業担当を依頼し、開講科目数の確保に努める。</p>		

【2022 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

経済学部商業学科通信教育課程の 2022 年度目標は、引き続き質の向上を求めるものについては 2021 年度目標がそのまま引き継がれ、すでに達成された目標については新たな目標が設定されている。重点目標は、「COVID-19 環境下での各種スクーリング科目授業の安定的な実施を模索しつつ、今後も各種メディアスクーリング科目の提供を維持し、多様な科目提供の継続に努める」こととなっており、コロナ禍においても状況が許す限り対面での開講を目指し、コロナの動向により臨機応変に対応可能な体制を作っておく施策を掲げており評価できる。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ
 ※注 3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善することができた、A：従来通り効果的に取り組むことができた。B：改善することができなかった。」を意味する。

【大学評価総評】

経済学部商業学科通信教育課程は通学課程と同水準の教育内容を提供することを目標としており、カリキュラムの体系化とその受講生への明示など、適切なカリキュラム改善の努力がなされている。

通信教育課程の特徴として、通学課程よりも多様性に富んだ社会経験と学習ニーズをもつ学生の入学が見込まれるが、それゆえにミスマッチを回避するよう心掛けることが不可欠となる。

慎重な入学判定の実施により、離籍率が昨年度と比べ 3%弱減少したことは評価できるが、引き続き注視することが望まれる。

定員充足についての対応は長期的な取り組みとなるが、志願者数の増加に向けての取り組みに期待したい。Web 学習サービスによる授業計画管理、多様な学習ガイダンスに加えて、教員とのコミュニケーション機会を様々な回路で準備することにより、質の高い教育の提供に努められており、この点は大いに評価できる。コロナ禍による通学課程のオンライン授業の経験の蓄積は、通信教育課程にもさまざま活かせると思われるので、今後は、(大学の予算の許す範囲での) 通学課程と同様の Hoppii の導入要請や、オンライン授業のなかの通学課程用「オンデマンド」型教材の、柔軟な利活用など、通教担当の専任教員の負担が少しでも軽減されるような、オンライン授業のノウハウの有効活用を図ってゆくと良いのではないかと期待している。

各種スクーリングについては更なる充実化を図るため、科目の多様化と質の改善に努めるとの目標を掲げており、一層の充実を期待したい。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 「はい・いいえ」は該当の回答を選ぶ

※注3 「S・A・B」は該当の回答を選ぶ ※注 「S・A・B」は前年度から「S: さらに改善することができた、A: 従来通り効果的に取り組むことができた。B: 改善することができなかった。」を意味する。